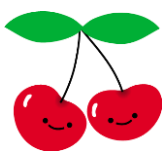


さくらんぼ



～やさしく・かしこく・たくましく～

NO. 1 平成30年4月26日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL:<http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

園庭にチューリップが咲いていた始業式、入園式からもうすぐ一ヶ月になります。今年は暖かい日が続く、花組保育室側の「さくらんぼ」の実も赤く色づき始めました。赤く実ったら星組さんが力を合わせて収穫してくれます。それを園のみんなで分け合っていたことが園の文化になっています。みんなを楽しませてくれる園庭の「さくらんぼ」にちなんで、園での楽しい生活とそこでの育ちを伝える通信「さくらんぼ」をお届けします。

今回は新学期をどのように過ごしてきたか、それぞれの年齢の姿とともに、保育者の思いや願いをお伝えしようと思います。

幼稚園が楽しい場所になるように～花組～



チューリップや菜の花が咲きほころぶ中、かわいい花組さんが入園してきました。笑顔で幼稚園を楽しみに来る子どもたちに交じって、おうちの人と離れるのが不安で涙が出る子どもたちもいます。子どもたちにとって今までおうちの人に囲まれて生活していたところから、新しい場所で出会ったばかりの人達と過ごすのは、すごく大変なことです。大人でも環境が変わると緊張しますよね。本園では少しでも子どもたちが園に慣れ、落ち着いてゆったりと過ごせるように、また、一人一人と丁寧にかかわり、保育者が子どもたちと信頼関係を築いてけるようにと半数登園をしています。

入園して数日しか経っていませんが、それでも少しずつ園の生活が子どもたちの中に入ってきているのを感じます。

お兄ちゃん（附小）と同じところにいけると期待して登園してきたA君は「建物が違う！」と入園当初から怒っていました。「おはよう」と声をかけると2日間は「ん！」と怒った返事をしていましたが、好きな外遊びをする中で幼稚園は楽しいことができる場所と分かったのか3日目には「おはよう」と声をかけると抱きついてきて返事をしてくれるようになりました。A君にとって楽しい場所になってきているのかなと感じた場面でした。

幼稚園であったことがその子なりにつながっている姿も見られました。B君は小雨が降ってきた時に「雨が降ってきたから汽車に乗ってお出かけしよう」と遊んだ日のことを覚えていて、次の登園日に、ふと「雨が降ったら汽車に乗るんだよね」と言いました。B

君なりにつなげて考えたんだなと思いましたし、楽しかったから覚えていて、楽しかったねという確認だったのかなとも思いました。

Cちゃんは不安でお母さんから離れると涙が止まりませんでした。そこでお母さんをお願いをして少しの間一緒に遊んでもらうことにしました。始めはお母さんの手を離さずにはいましたが、遊ぶ中でD君と仲良くなったり、先生と楽しそうに話しながら遊ぶ姿が見られたりするようになり、段々とお母さんの側を離れて遊べるようになっていきました。お母さんが帰ると涙がでますが、遊びに誘うと遊び出せるようになっていきます。他の友達が困っていると“探してあげる”“大丈夫？”と友達の頭をなでるなど他の友達を心配する心の余裕もできています。

休み明けの日は不安になったり、休みの間、おうちで楽しかった思いが、離れたくない気持ちになったりすることもよくあることです。ですが子どもたちは少しずつ確実に園に慣れていっています。毎日子どもたちの心のたくましさを感じているところです。子どもたちにとって園や花組が自分の居場所になるように安心して過ごせる温かい場でありたいと思っています。保護者の方とおうちのことや園のことなどお話ししながら子どもたちの成長と一緒に見ていきたいと思っています。1年間よろしくお祈りします（辻村）

はじめましてのごあいさつ♪～風組～



風組は、進級25名・新入18名でスタートしました。お互いにドキドキ、ワクワクしながら始まった4月がもう少して終わろうとしています。進級の子どもたちは、風組さんになることを楽しみにし、始業式の日には花組さんのときよりも少しお兄さんお姉さんの表情で登園してきました。風組になるとクラスが2つにわかれます。そして、ロッカーの使い方も、自分のものをしまう場所も変わります。担任も保育室も違います。でも、さすが進級を楽しみにして来た子どもたち。自分の場所を覚え、お家の方とも「いってきます」とさよならをして遊び始め、頼もしさ全開！「1組さんとも遊んでいいの？」と聞いてきた子もいました。「もちろんいいよ」と答えると、うれしそうに花組さんのときに仲の良かった友達と遊ぶ姿も見られました。そして、もう少ししたら、風組さんにも新しいお友達が来ること、新しい花組さんも来ることを伝えると、「まかせて！」とここでも頼もしさ全開でした。きっとご家庭でも進級するにあたって、子どもたちが楽しみできるように声をかけてくださったのだなと感じました。

一方、新入の子どもたちは、初めての附属幼稚園にドキドキ。入園式を終え、風組での生活がスタートしました。不安そうな表情の子ども、新しい環境に目をキラキラさせている子ども、様々な姿が見られました。始めは戸惑った表情の子どもたちでしたが、少しずつ「ぬり絵してもいい？」「お外に行ってみよう！」「あのね、粘土したことあるんよ。」と自分がしたいことをしっかり伝えてきました。

新しい場所で思いを伝えることは、とても勇気がいることです。幼稚園に入園するまでの生活の中でも、しっかりと思いを聞いてもらっていたのだなと感じました。中には、登園してすぐは少し不安そうな表情の子どももいますが、友達が来ると表情がぱっと明るくなって、側に行き、二人で手をつないで遊び始める姿も見られました。子どもたちでたくましいなと感じたとともに、新しい場所にドキドキしつつ頑張ろうとしているのだなと感じました。

そして、そんな進級児と新入児と一緒に過ごし始めました。「まかせて！」の言葉通り、新入のO君が座れるように席をとってしてくれる進級のH君。進級のYちゃんが「グローブジャングルを回してほしい。」ということばに回してくれる新入のAちゃん。自分も同じように双眼鏡を作りたくなった新入のEちゃんに作り方を教えてくれるM君とAちゃん。などなど、書けばきりがないくらい、進級の子どもたちも、新入の子どもたちも、お互いを意識してかかわっています。

これから1年間で、風組さんとして過ごす中で、子どもたちが好きなことを見つけて、いろいろな思いや出来事を経験しながら心も体も大きく育っていけるように、私たちも頑張ります。どうぞよろしくお祈りいたします。（厚東）

みんなで取り組むことも楽しくなる～星組～



星組は、始業式の後すぐに生活グループを決めることから始めました。星組になると、農場へ行ったり、料理をしたり、小学生と交流したりなど、学年のみんなやグループで取り組む生活が始まるのです。いつもの仲良しの友達とだけでなく、いろいろな仲間とのかわりの中で、共通の目標に向かって取り組むことが楽しめるように、一年間様々な体験を積み重ねていきます。生活グループが決まり、保育者が「明日はグループで料理をするよ。卒業した星組さんが植えてくれたブロッコリーが大きくなっているからね。味付けは明日のお楽しみです。ブロッコリー食べられますか？」と投げかけました。「食べられる」の声もあれば「マヨネーズならちょっとは食べられる」「苦手」の声も聞かれました。

翌日、さっそくグループでの活動です。グループの中で順番を決め、番号順に道具や材料を取りに来たり、順番に代わり合って作業をしたりします。初めての料理の味付けは胡麻和えです。みんなで力を合わせて胡麻をすり鉢ですります。「いい匂いがする」「早く食べたい」という声が聞こえます。しっかり擦れたグループから砂糖、醤油が配られ、しっかり混ぜたらブロッコリーを入れ、まず味見です。友達の「おいしい」の声に、昨日「苦手」と言っていた子どもも食べています。迎えに来たお母さんに「食べたよ！」と嬉しそうに言っていました。一緒に取り組む友達の楽しむ姿が、苦手克服の後押しをしてくれたようです。（高田）

編集担当 高田